

日中翻訳 川柳の中国語訳を例に

著者	続 三義
著者別名	Xu Sanyi
雑誌名	経済論集
巻	45
号	2
ページ	1-14
発行年	2020-03
URL	http://doi.org/10.34428/00011490

日中翻訳 ——川柳の中国語訳を例に

続 三 義

初めに

日本の第一生命では、「サラリーマン川柳コンクール」が開催され、2018年度で第31回目を迎え、多くの秀作が出た。インターネット上に中国語訳も出た。面白い訳も多くあるが、検討すべき訳も少なくない。ここで入手したその中国語訳（以下「訳文」とする）を分析し、川柳をはじめ、日本語を中国語に訳す時の問題点をいくつか指摘したいと思う。

俳句や川柳を中国語に訳すとき、中国語のスタイルをどうすべきか、多くの議論がなされてきている。筆者は特にその議論に参加していないが、5・7・5というスタイルに翻訳できればそのスタイルにしてもいいと考えている。5・7・5というスタイルのほか、中国語の詩歌などは韻律を重要視しているので、できるだけ押韻も考えなければならない。中でも日本語が音節言語であるのに対して、中国語は表意言語なので、同じ文字数で伝わる情報量の差はある。したがって、中国語で文字数が足りない場合、字数を増やす必要があるが、その場合、原文の意を害さない、当たり障りのない文言を補えばよいと思う。なにせ、翻訳というものは、あくまでも意味の伝達を主眼としなければならないというモットーなので、意味を過不足なく翻訳するように心がけなければならない。もし、意味的に訳しすぎまたは意味が不足していると、正しい翻訳とは言えない。本稿では、5・7・5のスタイルや押韻のことについては言及せず、意味の過不足がない、ということ川柳の翻訳基準にして、中国語訳を分析していくものである。

「訳文」の訳者は日本語に関する造詣があり、基本的には、文字で表されている字面の意味は問題なく理解できていると思われる。しかし、字面の意味が分かっているからといってそのまま中国語に訳しても原文の正しい意味が伝わらないことがある。本稿では、「訳文」を分析し、原文の意味の理解、中国語表現の問題に関して論じたいと思う。ただし、分析の視点などに関しては模索中なので、より良い視点はないか、皆様にいろいろお教えいただきたく存じる次第である。

第一章 原文理解の問題点

この章では、まず原文に対する理解の問題について述べる。

1. 詠み手の気持ちへの理解

(1) 07

スポーツジム 車で行って チャリをこぐ

(あたまで健康追求男：ワイルドだろ～～)

鍛煉靠日常，开车直奔健身房，跑步机上忙。¹⁾

この川柳は作者自身のことを言っているが、自分のやり方を自嘲しているものである。もし「訳文」の言うように、“鍛煉靠日常”「体を鍛えることは日常の積み重ね」なら、結構積極的に自分に対する要求なので、別に「車で行って チャリをこぐ」をしなくてもよかろう。スポーツジムなら、色々な機械があるから、色々な鍛え方もありうるが、作者は「チャリをこぐ」ことしかやっていない。しかも、車で通っている。体を鍛えると言って、車で行って、自転車をこぐなら、別に車で行かなくても、自宅の近くでもできるはずなのに、自分のやり方の滑稽さを詠んだものである。

原注で分かるように、作者は「あたまで健康追求男」で、もっと「ワイルドだろう」、つまり、本当はスポーツジムでなくてもよさそうだが、結局は「スポーツジム 車で行って チャリをこぐ」だけしかやらないという、自分の滑稽さを自嘲している。

もし「訳文」のように、まず“鍛煉靠日常”と腹を決め、そして“开车直奔健身房，跑步机上忙”「車でスポーツジムへ直行し、チャリを忙しくこぐ」なら、非常に積極的であり、高いモチベーションを持って体を鍛えているから、当たり前のことを言っていることになる。そうしたら、別に面白くない。そういうものは、この川柳100首に選ばれないだろう。

筆者の翻訳案を次のように示す。

健身房健身，都是开着汽车去，只蹬单车机。

2. 固有名詞か一般名詞かの把握

(2) 11

妻いない この日は朝から プレミアム

(ゆずいろ：プレミアムフライデー、夫の悲哀)

1) ここの「07」の番号は、ネット上の100首の川柳の番号で、次の1行目は原文、2行目は原文の注、3行目はネット上の中国語訳（小文では「訳文」とする）。以下同。

山中无老虎，一早家中我做主，超值赛周五。²⁾

この川柳の中に「プレミアム」という言葉がある。「プレミアム」は日本の大手企業などで実施された毎月最終金曜日の午後早く退勤できる制度である「プレミアムフライデー」（プレ金）のことを指しているように見える。しかし、「プレミアム」という言葉は、もともと「割増金、打歩、景品」（『広辞苑』第六版）の意味だったが、現在では「高級」の意味も持つようになっている。ここでは「上等」や「最高」という意味だろう。固有名詞の「プレミアムフライデー」よりも、一般形容詞として理解したほうがよい。もちろん、原注にもあるように、会社では、「プレミアムフライデー」といつて早く帰るかもしれないが、実際「夫の悲哀」ともなることから、「妻いない」日は「プレミアムフライデー」にあらず、「プレミアム」（最高）と詠んだものである。

この「訳文」の最初の文“山中无老虎”はある意味では、非常によい訳である。中国語の諺を利用した訳で、詠み手のうきうきした気持ちをうまく表している。

筆者の翻訳案を次のように示す。

妻子不在家，今天一天从早上，即是超级爽。

11のような表現は、15にもある。

(3) 15

静かだね 部長がいないと プレミアム

(小さな幸せ：全くです)

周五提前到。部长不在静悄悄，全都放羊了。³⁾

この川柳はただ部長がいないから、静かで、非常によいということを詠んでいる。別に“周五提前到”“金曜日が早くやって来た”と詠まなくていいだろう。そして、原文に無い意味の“全都放羊了”「すべて退散した・すべて好き勝手にやっている」という言葉は面白い使い方ではあるが、部長がいないからと言って、社員たちは好き勝手にできる、ということはないだろう。ここではやはり不適切としか言えない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

室内静悄悄，刚才部长一走掉，大家全爽了。

2) 「訳文」の意味は大体次のとおりである。「山中に虎（妻）がいない、朝早くから吾がボスになり、プレ金に匹敵する素晴らしい価値」。

3) 「訳文」の意味は大体次のとおりである。「プレ金が早くやって来た。部長がいないと静まり返り、全部羊を放牧した（野放図だ）」。

3. 現代社会の事情・日本事情への理解

(4) 16

保存先 いつもどこかへ かくれんぼ

(怪傑もぐり33世：何でだろ、見つからないよね～)

东西收藏好。只是用时就发毛，总也找不着。⁴⁾

ここでの問題は「保存先」であるが、ここの「保存」は何を保存するのかということである。これはあくまでも、パソコンなどの電子機器でファイルなどを保存することである。現代日本語の「保存する」は物の保存にも使われるが、「保存先」として使われる際は、パソコンなどIT関係の用語としてしか使われないようである。“东西收藏”「ものをしまう」と言ったら意味が取れない。これは、現代社会の事情、特に日本語における表現事情の問題である。

筆者の翻訳案を次のように示す。

文件保存好，一到用时到处找，它总藏猫猫。

次の川柳も同じ日本事情への理解の問題である。

(5) 35

ふるさとへ 納税だけが 帰省する

(井戸乃蛙：旅費が高くて)

故乡少牵挂，不到集中交税时，不知回老家。⁵⁾

この川柳では、「ふるさと納税」という日本の特別な制度を詠んでいる。この「ふるさと納税」は本人が他所にいる場合、本当は居住地に納税すればいいが、「ふるさと納税」法を利用すれば、その一定の額の税を自分の故郷に納付して、居住地での控除を申請することができるようになっていいる。自分が故郷に帰らなくても、自分の納めた税金は故郷へ帰ることができる、そういったことを詠んだものである。したがって、ここでは、別に“故乡少牵挂”「故郷に対してあまり気に掛けない」とか、“不到集中交税时，不知回老家。”「集中納税の時期にならないと故郷に帰ることを知らない」とかの意味ではない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

故乡常萦牵，只有所缴“老家税”，可以回家转。

4) 「訳文」の意味は大体次のとおりである。「物はちゃんとしまった。ただ使うときになると慌てる。どうしても見つからない」

5) 「訳文」の意味は下記の説明を参照されたい。

次も同じく日本の現事情の理解の欠如からきている。

(6) 77

嫁からの 返事はいつも 既読だけ

(孤高の親父：出た既読スルー)

老婆特簡略：从来给她发微信，回我总是“阅”。⁶⁾

この川柳の「訳文」でも、なんとなく意味が理解できる。しかし、やはりここでの「既読」の問題は解決していない。中国の携帯事情はそのうちに変わるかもしれないが、日本のlineは、この「既読」という機能がある。メッセージを受けた人は、そのメッセージを読めば、直接返事しなくても、自動的に「既読」という表示が送信した側の携帯などに表示される。したがって、lineによる書き込みに対しては、“老婆特簡略”「妻は非常に簡略的で」というのではなく、自動返信機能の「既読」だけが表示され、何も返事はしていないのである。こういう事情を考慮に入れて翻訳すると、正しい伝え方ができるだろう。中国のウィーチャットにはこの機能はないようだが、メールなどでは自動返信機能を設定することによって、一々返信しなくてもメールが届いたら、自動返信できるようになる。この川柳はそれに似たlineの事情を詠んだものである。

筆者の翻訳案を次のように示す。

老婆回邮件，每次都是两个字，自动的“已看”。

4. 語の内包と外延の意味の問題

(7) 39

ランニング ゴールは近所の 居酒屋へ

(銀：汗かいて、1杯がうまいこと)

晚上去跑步。终点就是不远处，酒馆闪身入。

この「訳文」の問題点は、いくつかあるが、主に取り上げたいのは“不远处”「遠くないところ」の表現である。原文の「近所」という表現は、字面（内包）から言えば「近いところ」、つまり“不远处”になるかもしれない。しかし、実際（外延）は家の近くという意味である。つまり日本語の「近所」はほかの限定がない場合、「家」を起点にしている。対して、「訳文」の“不远处”はどこを起点にしているかといえば、普通話し手のいるところまたは話し手の設定しているところを起点としている。ここでは、話し手のいるところ、つまり今「ランニング」しているところから見た近い先のことである。言い換えれば、字面からみれば「近所」は「近いところ」の意味であるものの、実

6) 「訳文」の意味は大体次のとおりである。「妻は非常に簡略的で、いつも彼女に送信しても、返事はただ『読んだ』と」。

際には「家の近く」という外延上の意味の限定がある。一方の“不远处”は「話し手のいるところの近く」であり、意味上の相違がある。

さらに、原文では特に「夜」という設定はない。休日なら、お昼でもよければ、夕方でもよいかもしれない。“晚上去跑步”と限定すると、表現しすぎているというきらいがある。

また、「訳文」の最後の句の“酒馆闪身入”とは、「速やかに居酒屋に入る」という意味だが、原文では、ただゴールはそこに決めている、という意味でしかない。

原文は、自分のランニングについての一般的なこと、つまりいつもこうなるという恒常的なこと、ある意味では静的な事柄を述べている。一方「訳文」だと、ある夜のこと、つまり個別具体的な出来事の設定に加え、“酒馆闪身入”で動的な表現となっている。

筆者の翻訳案を次のように示す。

锻炼去跑步，终点定在家近处，小小居酒屋。

5. 個人の問題か一般的な問題か

(8) 40

A I が 俺の引退 早めそう

(だいちゃんZ! : 電子化についていけない、中高年の悲哀)

可怜中高年。人工智能要了命，退休再提前。

この川柳も日本の現代事情を詠んでいる。ここで詠んでいるのはあくまでも「俺」のことであるが、「訳文」では“可怜中高年”「哀れなる中高年」から始まり、中高年全体を指すようにしている。これでは、川柳の元々の意味を反映していないことになる。

さらに、ここでは“可怜中高年”と中句の“要了命”「大変だ」という言い方のように具体的な感嘆の言葉が入っている。第二章で述べるが、日本の俳句や川柳などは、事実の描写を以てある意味を表現することを良しとして、作者の感嘆をそのまま表現することは好まれない。ここの原文も、淡々とその現象を詠んでいる（もっとも、原注には「中高年の悲哀」というのがあるが、川柳の本文には入っていない）。

さらに、「訳文」の最後の句の中の“再”「さらに」という表現も余計なように感じられる。原文の「早めそう」はただの“会提前”であって、“再”を用いると、「さらに」という意味が入る。もともと早い、さらに早くなるというニュアンスがないので、この語は余計である。なお、ここの「早める」は他動詞で、自分の引退時間を早くするという意味も含めているが、中国語で表現する場合、“会使用我的退休提前”といった使役の使い方表現するとよい。

筆者の翻訳案を次のように示す。受身の表現にしている。

人工智能化，自己退休的时间，恐怕被提前。

6. 能動的か受身的か

(9) 29

天職と 言って転職 繰り返す

(過労ワーク：人財か、人罪か)

敬业又爱岗。都说我最适此岗，却总被换岗。

これは詠み手自身が職業を転々とする様子を自嘲して詠んだものであろう。自分がある職業が自分に非常に合う、自分はそれを「天職」と思っている、あるいは思いたい。原注の「過労ワーク：人財か、人罪か」で示されているように、結局過労などでその仕事に耐えられなくなり、つい転職をせざるを得なくなってしまう、そういったことを詠んでいる。

「訳文」の最初の言葉はいいとしても、中句の“都说我最适此岗”「誰もが私はこの職場に合うとやっている」の意味は、原文と違う。そして、挙句の“却总被换岗”は、「しかし、いつも職場を変え(させ)られる」という意味で、これも原文の意味とは違う。つまり、原文は、外的な要因はどうか、話し手の能動的な表現であるのに対して、「訳文」では受身となっている。この“被”は近年中国で、非常に変な使い方⁷⁾で使われているが、ここでは、ただ「させられる」という意味で、そういった意味はない。

なお、日本語の「転職」は中国語の“换岗”の意味とはまた違う。日本語の「転職」は普通ある会社を辞めて別の会社に就職するということである。これに対して、中国語の“换岗”はある会社内での職場異動のことである。したがって、“换岗”の使い方にも問題がある。

そして、この川柳の中の「天職」と「転職」は同じ「てんしょく」という発音で、音のダジャレとなっていることも翻訳する場合、注意すべき点である。

筆者の翻訳案を次のように示す。

此乃我天职，刚刚说过就转职，一职接一职。

7. 詠み手と詠まれる主体の問題

(10) 47

都合よく 「若手」「中堅」 使われて

(アラサー女子：お局様は死語?)

青熟女难缠。有时称之“年轻人”，有时称“中坚”。

これは会社の30歳台の女性（アラサー女子）が自分たちの立場を詠んだもので、簡単に言えば、

7) 中国語の“被”は受身のマーカーとして知られる。しかし、近年中国では、本当の受身の意味ではなく、そう噂される、そう喧伝される、と言った使い方が流行っている。

会社では、その都合により、自分たちは時には「若手」、時には「中堅」といわれている、ということ詠んだものである。このことを“青熟女难缠”と訳したら、まず、この“青熟女”という中国語は意味がはっきりしない。無理矢理に「若手・成熟した女性」と解したところ、やはり意味が分からない。そして、“难缠”というのは、「うるさい、やかましい、扱いにくい」（『中日大辞典』大修館書店）という意味だから、こう詠んでは、だれが“青熟女”を“难缠”と見ているのかが問題となる。原文は、30代の女性が自分たちに対する会社のご都合主義を詠んでチクリと刺しているが、「訳文」だと、詠み手が分からない。そして、原文では、詠まれる主体はアラサー女子であるが、「訳文」では、会社の人間か、一般社会と考えた方がよいかもしれない。詠み手と詠まれる主体の混乱による問題である。筆者の翻訳案を次のように示す。

我们女职员，一会说你“年纪轻”，一会是“中坚”。

次の川柳も同じである。

(11) 85

父さんの 苦劳知ってる 靴の底

(可可子：すり減るよね～)

鞋底磨损深。由此可知老父亲，奔波多劳神。

この川柳で詠まれる主体は、言うまでもなく「靴の底」である。つまり、靴の底が父さんの苦劳を知っている、ということ詠んでいる。しかし、「訳文」では、鞋底磨损深「靴の底は深くすり減っている」という原文にはない「深くすり減っている」ことを詠み、そして“由此可知”「これで知る」によってそのすり減っていることから、「私」が父さんの苦劳を知る、という意味になっている。

原文では、「靴の底」を父さんの苦劳を知る主体として立て、擬人化するという手法で詠んでいる。対して「訳文」は、「私」という詠み手を前面に出している。これでは、原文の持つ蘊蓄がなくなり、つまらない述べ立て文になってしまっている。

筆者の翻訳案を次のように示す。

到底有多累，老爸老爸谁知悉，只有您鞋底。

第二章 中国語表現の諸問題

この章では、中国語表現における諸問題について述べる。

8. 日中文化の相違への理解

(12) 08

飲み会で 上司の隣 ゆずりあう

(逃げ松：昔はお局様が怖かった)

喝酒围一桌，领导身边有空座，你躲她也躲。

「飲み会」の話なら、中国人の考えでは“围一桌”「一桌を囲む」でよいかもしれない。中国人の食事は、一般的に円卓を囲むことが多いので、“围一桌”はふさわしい。しかし、日本では、この情景はあまり見られない。日本の宴会は、旅館の宴会などのシーンを念頭におけば、向かい合って2列に並んでいる場面が多い。飲み会の会場は通常、居酒屋であることから、ここでの飲み会もテーブルに向かい合って2列に並んで座ることが多い。したがって、日本文化の特徴を出すには、“围一桌”は適切ではない。少なくともこの“围一桌”を強調する必要はないだろう。

次に、“你躲她也躲”は、「あなたも避ければ彼女も避ける」という意味になるが、ここでは、まず、「彼女」の使い方に問題があるかもしれない。これは中国語の三人称の発音は男女ともtaなので、女性を表す漢字を使っただけであるのかもしれない。それにしてもここでは、二人称、三人称を使うよりも、一人称と二人称の“我”と“你”を使えば特に問題ない。というのは、「あなたも避ければ彼女も避ける」なら、詠み手自身を棚上げにしている。他人事のように話していると、川柳らしくはない。主語はないので、だれのことかわからないが、詠み手自身を含むと理解した方がよからう。

さらに、“躲”という語は「避ける」という意味であるが、これでは現場の実際の雰囲気には合わない。というのは、「避けようとする」行動は、会社の飲み会ではありえない。まして、上司の前ではなおさらのことである。原文の「ゆずる」は、「避ける」ではない。「ゆずる」の漢字表記の「譲」にあたる中国語の“让”を使えばよい。少なくとも、日本文化の視点から考えれば、その場では、みんなが譲り合うことを実際にやっているだろう。結果的には、または参加者の意図から言えば、“躲”「避ける」ためかもしれないが、「避ける」で表現したところ、日本の譲り合う文化が台無しになってしまう。

この「ゆずる」にあたる中国語は“让”でもいいが、上記の説明で分かるように、譲り合うという日本語なら、中国語では、“谦让”や“推让”（「譲る」や「譲り合う」に関しては、『日中辞典』講談社では、この2つの訳語は載っていないが）と訳すことができる。中国語には、“你推我让”という四字熟語もあるほどである。ここでは、“推让”の意味での“推”という1文字を使ってもよい。

筆者の翻訳案を次のように示す。

单位聚餐会，领导身边有空位，你推我也推。

单位餐会上，领导身边有空档，你让我也让。

9. 中国語表現のニュアンスの問題

(13) 28

遅れても はっきり寝坊と 言う新人

(バカまじめ：まっこうだ～)

迟到又如何？新手直言相告说，今早睡过了。

この川柳では、現代日本社会における若者の、会社での物事への対応の態度を表現したものである。原注の「バカまじめ：まっこうだ～」で示されている通り、今の新人は、会社で仕事に遅刻しても、言い訳せず、割と素直に自分の非を認めるということを言っているのである。しかしながら、もし「訳文」の“迟到又如何？”だと、これは「遅刻したところ文句があるか！」と開き直った表現となり、反発のニュアンスが非常に強くなってしまふ。原文ではそこまでは言っていない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

即使迟到了，新职员直言不讳：今天睡过了！

10. 中国語表現が大げさすぎる

(14) 59

ヨーイドン 気持ち走るも 足は出ず

(ペダル族：脳に体が追いつかず)

现在就起航！我心运动已飞翔，不见腿跟上。

この川柳では、原注の「ペダル族」を見れば、自転車か何かの競技のことを詠んでいるようである。それを無視しても、一般的な競走と見てもよからう。

そして、「ヨーイドン」は何かを始める時の掛け声なので、「訳文」では“现在就起航”「今に離陸する」という言い方は大げさすぎる。それから、“我心运动已飞翔”「わが心の運動はすでに飛翔している」などと言っているが、「わが心の運動はすでに飛翔している」または「わが心では、運動がすでに飛翔している」という表現自体も、何を言っているか分からない。

ここでは、淡々と競走のことを詠めばよい。しいて言えば、競走でなくとも、自分のジョギング・ランニングなどを詠んだものと理解してもよからう。

筆者の翻訳案を次のように示す。

预备——各就位，心情早已经起跑，不动是腿脚。

11. 表現する事実の相違問題

(15) 72

後輩が 心開くの LINE だけ

(くま吉：お前だけが友達だ～～)

如今年轻人，只有微信最知心，手机不离身。

この川柳は、先輩が後輩のことを詠んだものである。今の後輩は何か悩みを打ち明ける際、先輩

と直接話すのではなく、Lineを利用してその相手（友人あるいは見知らぬ人）に心を開いて相談するといった現状を詠んでいる。しかし、「訳文」の意味は、「今の若者は、lineだけが親しい、携帯は手放さない」なのだから、原文が詠んでいる事実と全然違うから、意味が伝わらない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

公司诸后辈，如今大都只向着，微信开心扉。

12. 中国語表現に余分な感情表現の問題

川柳などは、詠み手が事実などを淡々と詠んでいるものが多い。中国語訳に評価や感嘆などを入れると、原文の気持ちを壊してしまう。これはおそらく川柳や俳句を中国語に翻訳する際に、最も気を付けなければならないことである。

(16) 26

テレワーク 在宅勤務は 妻がNO

(延長戦を続ける男：居場所が～～)

本来挺高兴：在家工作有弹性。老婆不答应

原文では、淡々と事実を述べているが、「訳文」は“本来挺高兴”「元来、うれしいことだが」ということを入れている。

筆者の翻訳案を次のように示す。

公司有规定，可以在家把班上，老婆不答应。

(17) 45

辞めますも SNSで 済ます部下

(旧新人類：それがスタンダードなの?)

现在年轻人，发个微信便走人，真是愁死人。

原文では、今の若者の物事への対応の仕方を淡々と述べているのに対し、「訳文」では、“真是愁死人”「本当に悩ましい」ということを入れている。詠み手の気持ちをあからさまに出さない方がいい。

筆者の翻訳案を次のように示す。

公司手下人，微信发一个“辞职”，这就走了人。

(18) 93

改善を 提案すると 業務増え

(読み人知らず：そうなんです)

真让人没辙。每次提议搞改革，工作反增多。

この川柳も上で述べてきたものと同様、「訳文」の“真让人没辙”「本当になすすべがない・困っている」という詠み手の気持ちを詠んでいるが、原文にはない表現であって、訳文として出す必要はない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

公司要改革，每次改革提方案，业务就增半。

(19) 95

効率化 提案するたび 人が減る

(元気パパ：要はコストカット)

增效为了谁？提案每次被采纳，总有人倒霉。

原文では、会社の改革で、人が減るという事実を淡々と詠んでいるが、「訳文」は、“总有人倒霉”「いつも馬鹿な目に合う/ひどい目に合う人がある」という詠み手の評価を入れている。これも要らない言葉である。

この川柳の「訳文」には、“增效为了谁”「効率化はだれのためか」という意味も入れている。原注の「要はコストカット」で分かるように、効率化の目的を一応示している。しかし、「誰のため」とは詠んでいない。原文の無い内容を入れても意味が伝わらない。

筆者の翻訳案を次のように示す。

增效增效好，每次提案搞增效，总有人被炒。

13. 四字熟語の誤用

(20) 01

効率化 進めて気づく 俺が無駄

(さごじょう：カイゼン、改革、イノベーション)

原来我多余：单位管理提效率，卸磨亦卸驴。

原文の「俺が無駄」に対して、「訳文」が“我多余”で対応するのは問題ない。しかし、拳句の“卸磨亦卸驴”は、詠み手の効率化に対するマイナス的な評価の意味があると同時に、この表現自体に問題がある。中国語の四字熟語に“卸磨杀驴”「粉をひき終わるとロバを殺す。用済みになると見捨てるたとえ」(『中日辞典』講談社)というのがある。ここでは、それを転用していると見られるが、“卸磨亦卸驴”では意味が通じない。というのは、“卸磨杀驴”では、“卸磨”は字面では「引き臼を下ろす」つまり「粉をひき終え、ひき臼を引くロバを外す」という意味であるが、転じてすなわち“卸驴”「ロバを外す」ことを指す。つまり、“卸磨亦卸驴”という中国語の表現は意味を重複しているのである。四字熟語の“卸磨杀驴”は、字面では、「ロバを殺す」ことになる。つまり比喩的に「用済みになると見捨てる」になるが、ここでの転用は恐らく意味の理解の違いから誤用となってしまっ

たのである。

筆者の翻訳案を次のように示す。

单位讲效益，改着改着注意到，我是卸磨驴。

結び

本稿では、ネット上の川柳に関する中国語訳について述べてきた。おおざっぱに言えば、翻訳は原文の理解と訳出文の表現の問題である。しかし、原文の理解といっても、ここでは、日本の社会、文化などを含めた日本語の理解のことであり、中国語の表現も、原文の意味とニュアンスを正しく理解したうえ、表現の仕方にも推敲を入れないと、正しく意味を伝えることができない。翻訳は非常に難しい。

参考文献

- 続三義 [2000A]. 日译汉教学小议——从教学实践谈起 『荒屋勸教授古希記念中国語論集』 白帝社
- 続三義 [2000B]. 日汉翻译中的宏观把握 《日语研究》第1辑 商务印书馆（日语研究编委会）
- 続三義 [2004A]. 从日译汉角度看日语汉字及汉字词语的认知与表达 《政大日本研究》创刊号 台湾政治大学
- 続三義 [2004B]. 日汉翻译中时间的认知与表达 《日语研究》第2辑 商务印书馆（日语研究编委会）
- 続三義 [2007]. 日译汉时的视角和文脉 《日语研究》第5辑 商务印书馆（日语研究编委会）
- 続三義 [2019]. 有关和歌的翻译——某论文中几首和歌的汉译问题 《汉日对比语言研究论丛》第10辑 浙江工商大学出版社
- 続三義 [2010] 日中逐次通訳について——通訳の試験問題から 『アジア文化研究所研究年報』 2009 (44)

付録 川柳の原文、「訳文」と続試訳案

番号	日本語原文	中国語訳(原)	中国語訳(続)
07	スポーツジム 車で行って チャリをこぐ (あたまで健康追求男：ワイルドだろ～)	锻炼靠日常，开车直奔健身房，跑步机上忙。	健身房健身，都是开着汽车去，只蹬单车机。
11	妻いない この日は朝から プレミアム (ゆずいろ：プレミアムフライデー、夫の悲哀)	山中无老虎，一早家中我做主，超值赛周五。	妻子不在家，今天一天从早上，即是超级爽。
15	静かだね 部長がいないと プレミアム (小さな幸せ：全くです)	周五提前到。部长不在静悄悄，全都放羊了。	室内静悄悄，刚才部长一走掉，大家全爽了。
16	保存先 いつもどこかへ かくれんぼ (怪傑もぐり33世：何でだろ、見つからないよね～)	东西收藏好。只是用时就发毛，总也找不着。	文件保存好，一到用时到处找，它总藏猫猫。
35	ふるさとへ 納税だけが 帰省する (井戸乃蛙：旅費が高くて)	故乡少牵挂，不到集中交税时，不知回老家。	故乡常萦牵，只有所缴“老家税”，可以回家转。
77	嫁からの 返事はいつも 既読だけ (孤高の親父：出た既読スルー)	老婆特简略：从来给她发微信，回我总是“阅”。	老婆回邮件，每次都是两个字，自动的“已看”。
39	ランニング ゴールは近所の 居酒屋へ (銀：汗かいて、1杯がうまいこと)	晚上去跑步。终点就是不远处，酒馆闪身入	锻炼去跑步，终点定在家近处，小小居酒屋。
40	AIが 俺の引退 早めそう (だいちゃんZ！：電子化についていけない、中高年の悲哀)	可恰中高年。人工智能要了命，退休再提前。	人工智能化，自己退休的时间，恐怕被提前。
29	天職と 言って転職 繰り返す (過労ワーク：人財か、人罪か)	敬业又爱岗。都说我最适此岗，却总被换岗。	此乃我天职，刚刚说过就转职，一职接一职。
47	都合よく「若手」「中堅」使われて (アラサー女子：お局様は死語?)	青熟女难缠。有时称之“年轻人”，有时称“中坚”。	我们女职员，一会说你“年轻”，一会是“中坚”。
85	父さんの 苦労知ってる 靴の底 (可可子：すり減るよね～)	鞋底磨损深。由此可知老父亲，奔波多劳神。	到底有多累，老爸老爸谁知悉，只有您鞋底。
08	飲み会で 上司の隣 ゆずりあう (逃げ松：昔はお局様が怖かった)	喝酒围一桌，领导身边有空座，你躲她也躲	单位聚餐会，领导身边有空位，你推我也推。
28	遅れても はっきり寝坊と 言う新人 (バカまじめ：まっこうだ～)	迟到又如何？新手直言相告说，今早睡过了。	即使迟到了，新职员直言不讳：今天睡过了！
59	ヨーイドン 気持ち走るも 足は出ず (ペダル族：脳に体が追いつかず)	现在就起航！我心运动已飞翔，不见腿跟上。	预备——各就位，心情早已经起跑，不动是腿脚。
72	後輩が 心開くの LINEだけ (くま吉：お前だけが友達だ～)	如今年轻人，只有微信最知心，手机不离身。	公司诸后辈，如今大都只向着，微信开心扉。
26	テレワーク 在宅勤務は 妻がNO (延長戦を続ける男：居場所が～)	本来挺高兴：在家工作有弹性。老婆不答应。	公司有规定，可以在家把班上，老婆不答应。
45	辞めますも SNSで 済ます部下 (旧新人類：それがスタンダードなの?)	现在年轻人，发个微信便走人，真是愁死人。	公司手下人，微信发一个“辞职”，这就走了人。
93	改善を 提案すると 業務増え (読み人知らず：そうなんです)	真让人没辙。每次提议搞改革，工作反增多。	公司要改革，每次改革提方案，业务就增半。
95	効率化 提案するたび 人が減る (元気パパ：要はコストカット)	增效为了谁？提案每次被采纳，总有人倒霉。	增效增效好，每次提案搞增效，总有人被炒。
01	効率化 進めて気づく 俺が無駄 (さごじょう：カイゼン、改革、イノベーション)	原来我多余：单位管理提效率，卸磨亦卸驴。	单位讲效益，改着改着注意到，我是卸磨驴。